環境変化における日常生活活動への影響
～食事場面に焦点を当てて～

介護老人保健施設セージュ山の手
リハビリテーション課　佐々木　周平

はじめに

車椅子は移動手段であり、
日中座って過ごすための椅子

当施設でも同様に使用し

車椅子座位で
日常生活活動を行っている

現状

当施設で利用している車椅子の多くが標準型車椅子

その座面はナイロンやビニール製のシートがハンモック状に固定されたスリングシートである。

取組内容

スリングシートは体重負荷により変形・弯曲するため、不良な座位姿勢の原因となること、座位姿勢を安定させにくくすることが指摘されている。

そこで

食事場面での
姿勢の変化や摂取時間に焦点を当てて

椅子座位との比較検証を行った。

対象

①車椅子座位で
日常生活を行っている

②椅子座位が可能

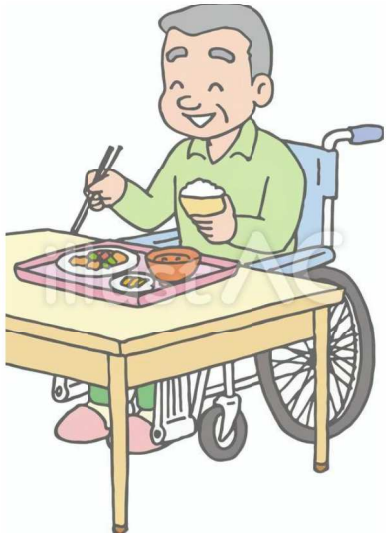
③食事動作が
セッティング自立以上

以上の条件を満たす利用者4名

方法

Ⅰ.車椅子使用時と椅子使用時の
姿勢・観察による比較

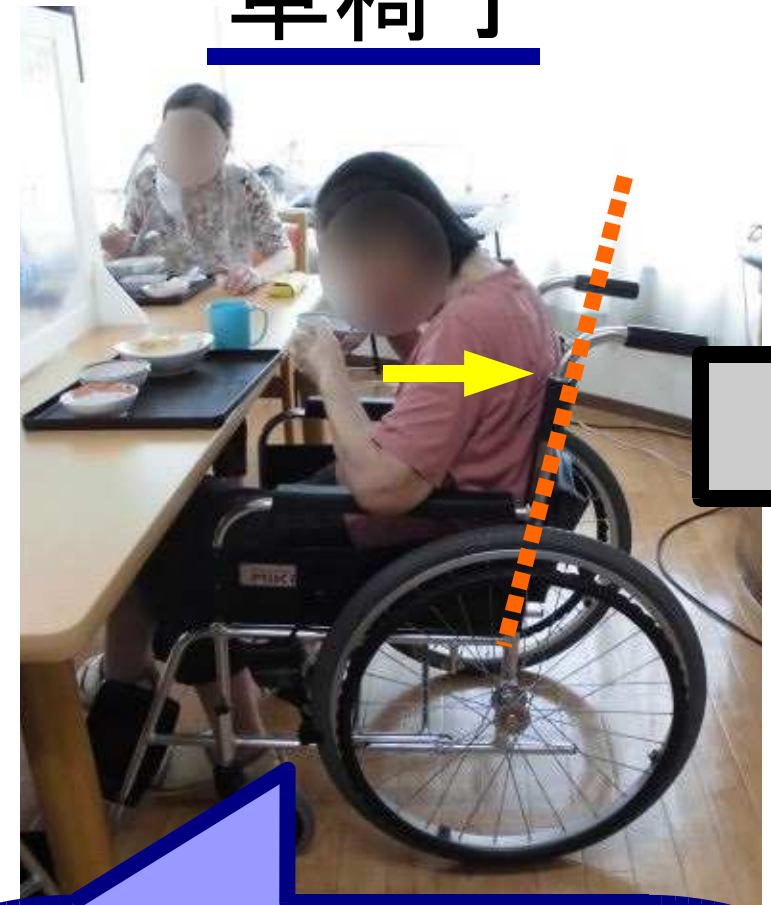
Ⅱ.食事摂取にかかった時間の比較



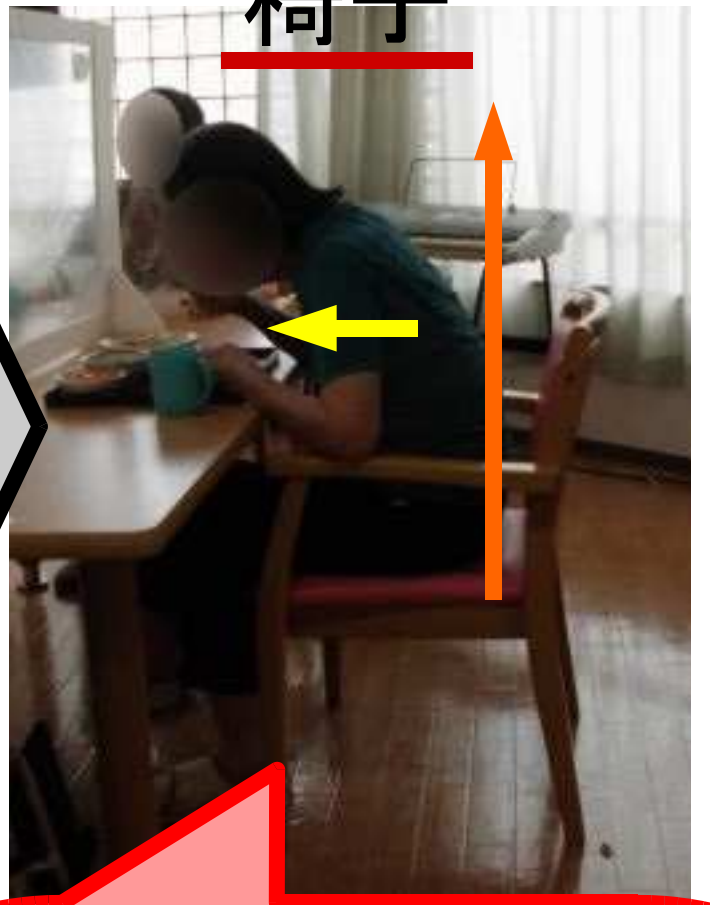
環境調整を行った上で
それぞれに3日間ずつ
約1ヵ月間実施

結果Ⅰ

車椅子



椅子



× 体幹・骨盤とも後傾し、
車椅子にもたれかかっている

◎体幹・骨盤とも前傾見られ、
上体を起こすこと出来ている

結果Ⅰ

車椅子

×食事への姿勢・意欲低下

椅子

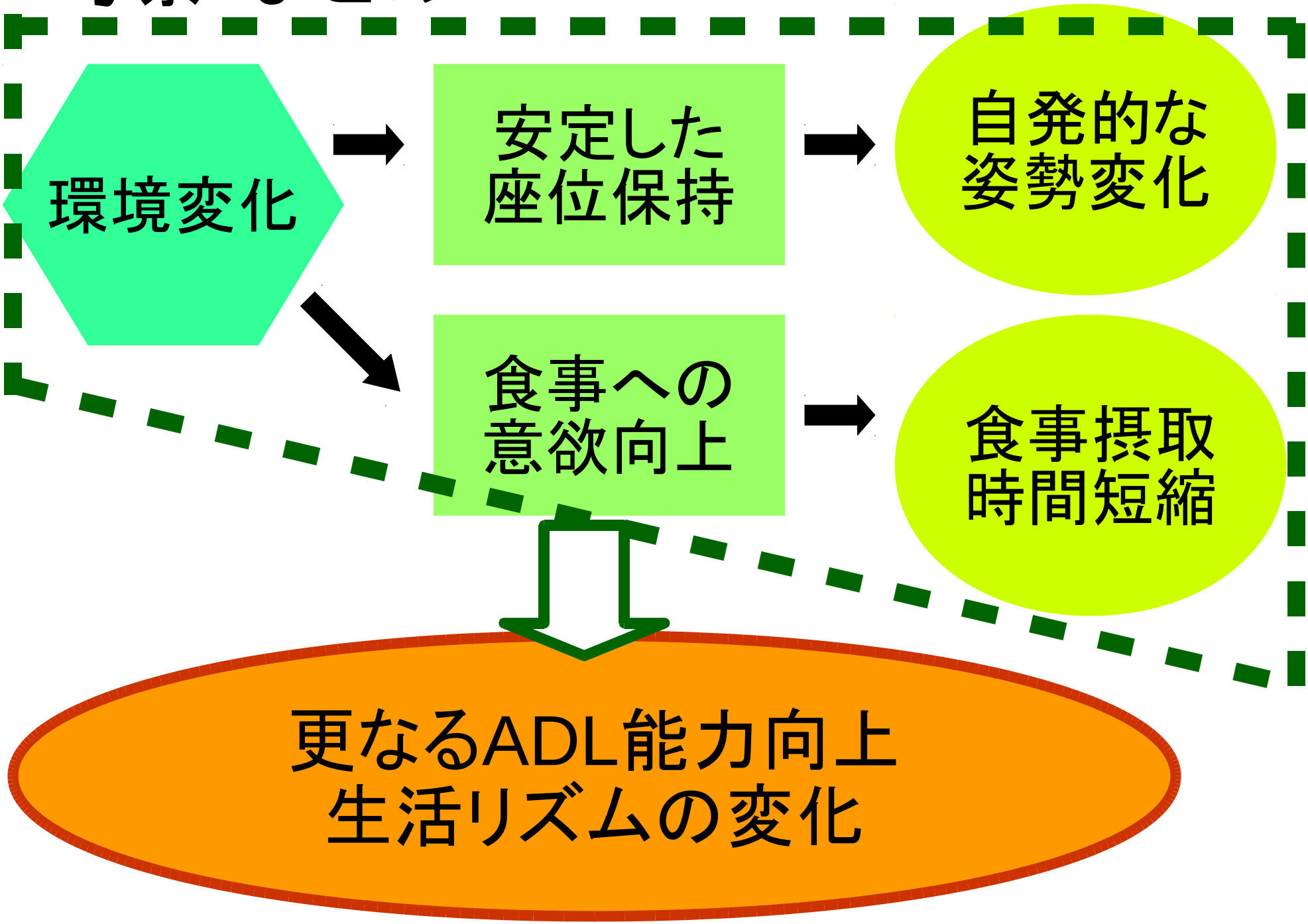
◎食事への姿勢・意欲向上

結果Ⅱ

利用者	車椅子	椅子	時間の差
A	15.56	14.98	−0.58
B	15.58	14.17	−1.41
C	7.93	6.17	−1.76
D	9.74	9.02	−0.72

全体的におよそ1分程度の時間短縮

考察・まとめ


環境変化
安定した
座位保持
自発的な
姿勢変化
食事への
意欲向上
食事摂取
時間短縮
更なるADL能力向上
生活リズムの変化

今後の展望

リハビリの現状や身体・認知機能の変化

情報共有
認識共有

多くの利用者に安全に
食べやすい環境の提供

自立支援

ご清聴ありがとうございました